

恵庭市長定例記者会見 (R2. 10. 12)

お忙しい中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。

本日は、第3回定例会が終了しましたので、議会を終えての所感、並びに今後予定する事業などについて発表させていただきます。

今議会におきましては、追加議案3件を含む16件の議案について審議いただきました。

その主なものといたしまして、新型コロナウイルスに関連した「令和2年度一般会計補正予算」などがありましたが、その全ての議案についてご承認いただきましたことに、まずもって感謝いたします。

また、一般質問や各常任委員会の中で、市政の各般にわたる課題に関し、ご提言をいただきました。

これら議会からのご指摘を大切にしながら、さまざまな施策の推進を図って参ります。

それでは、本日の発表内容を述べさせていただきます。

まず1点目は、「市制施行50周年記念式典の開催」についてであります。

恵庭市は令和2年11月1日に市制施行50周年を迎えます。

市制施行50周年は、半世紀という大きな区切りにあたることから、市民の皆様と、これまで先人が積み重ねてきたまちづくりの歴史などを振り返り、市全体で祝うとともに、まちの未来を展望しながら更なる発展につながるよう、11月1日に市制施行50周年記念式典を開催いたします。

記念式典は、3部構成となっており午後1時から記念式典、2時からは恵庭岳太鼓保存会、恵庭紅鴉、恵庭すずらん踊り保存会、チーム絆花によるアトラクション、4時からは明治大学文学部教授の齋藤孝氏による記念講演を行います。

記念式典では、新型コロナウイルス感染予防に配慮しつつ、多くのご来賓と市民の皆様にご出席をいただき、心に残る式典となるよう準備して参ります。



2点目は、「花の拠点（はなふる）オープン」についてであります。

1月11日水曜日に、花の拠点「はなふる」をオープンする運びとなりました。

当日は、これまで本事業にご支援・ご協力をいただいた各関係機関や関係事業者の皆様、花の拠点の愛称「はなふる」を命名された方々をお呼びし、午前10時より記念式典を執り行います。

また、式典終了後は、各テーマガーデンの植栽に携わったガーデナーの方々にご協力いただきながら、ガーデンエリアとセンターハウスの施設見学会を併せて行います。

この度のオープンにより、ガーデンエリアやRVパークを始め、センターハウス内の観光案内所や情報コーナー、こどもの遊び場やRVパーク利用者専用の休憩室を供用開始することとなり、供用開始時刻は午前11時11分となっております。

供用開始にあたっては、広報えにわ11月号で特集掲載するほか、市ホームページやフェイスブック、各情報誌などにより周知して参ります。

3点目は、「小中学生及び妊婦の季節性インフルエンザ予防接種の助成」についてであります。

新型コロナウイルス感染症の影響により、市内小中学校では、長期にわたる臨時休業を余儀なくされ、著しく学習の機会が失われたところですが、また、例年のように流行する季節性インフルエンザに対しても、学級・学校閉鎖等の状況が予測されますことから、今年度に限り、今後の教育に係る予防対策として、小中学生を対象に「任意接種」の助成を実施するものです。

また、妊婦についても、肺炎にかかった場合には重症化する恐れがあることから助成の対象としております。

接種期間は10月1日より、来年1月末日まで、自己負担額は、定期接種の対象者である高齢者等と同じく1回1,000円に設定し、就学援助制度認定者及び生活保護受給者の方は無料となっております。

新型コロナウイルスと似た症状を呈する季節性インフルエンザの流行に備え、特に国が優先的な接種を呼びかけている予防接種法に基づく65歳以上の高齢者の方などにつきましても、指定医療機関を確認のうえ、ワクチン接種を受けて頂きますようお願いするところであります。

4点目は、「恵庭市新生児臨時給付金給付事業」についてであります。

本事業については、今回の定例会において補正予算を可決いただき実施することとなった事業であります。

新型コロナウイルス感染症の影響を受けながら不安な妊娠期を過ごし出産した子どもを育てる父または母への市独自の支援です。国の特別定額給付金の基準日の翌日である令和2年4月28日から令和3年4月1日までに生まれた新生児を対象に、臨時

給付金を支給するものであります。

申請期間は10月1日から令和3年5月21日とし、今年4月27日時点から申請日まで継続して恵庭市民であり、令和3年4月1日までに生まれた新生児と同居している父または母を申請者としております。

支給金額は、新生児1人につき10万円です。

給付の流れとしましては、出生届に基づき、順次、恵庭市より申請書を郵送し、返信された内容を確認後、指定口座に振り込むという流れとなっております。

新型コロナ禍において、心身共に苦しい時期を過ごされながら妊娠・出産された対象となる方々におかれましては、まだ安心できない状況のなかではありますが、この臨時給付金を、是非子育てに活用していただきたいと願っているところであります。

5点目は、「えにわ商品券 えにわんチケット」についてであります。

新型コロナウイルスの影響により落ち込んだ市内経済の循環・回復を目的として、恵庭市オリジナルの「えにわ商品券 えにわんチケット」を発行し、10月1日より利用が始まったところです。

今回は、恵庭市の独自事業として、購入型ではなく、給付型の商品券事業としており、1,000円の券を5枚、5,000円分で1冊とし、8月1日を基準日とした恵庭市民に1人1冊給付致しておりますが、この度、新生児と転入者につきましては、基準日を9月30日まで、拡大しております。

また、新型コロナウイルスの影響が、小規模事業者にとって大きいことから、小規模店舗においては、1枚1,200円分で利用できることとしております。ぜひ、地元の小さなお店でも活用して、応援していただければと思います。

9月30日現在で、405店舗の参加をいただいておりますが、別事業としてクーポンチラシ事業やテイクアウト代行業なども同時に開催しておりますので、併せてご利用いただければと思います。

引換券は既に送付済みですので、郵便局にお持ちいただき、購入することなく来年の1月15日まで商品券の現物と引き換えることが出来ます。また、商品券が利用できるのは、来年の2月28日までとなっております。

6点目は、「恵庭駅西口土地区画整理事業 相生通全線供用開始」についてであります。

これまでに恵庭駅西口周辺再整備事業として、土地区画整理事業と市街地再開発事業を一体的に進め、恵庭市の玄関口にふさわしい「まちの顔」づくりを目指して参りました。基本指針である、交通結節機能の強化、スムーズな自動車交通・歩行者の安全確保、賑わい・たまりの場の形成に基づき、生活利便機能や都市機能の充実を図ってきたところです。

恵庭駅西口土地区画整理事業は、平成24年1月に事業認可を受け、平成24年度より建物等の移転補償などに着手して以来、本年度で事業完了となっており、来年度からは清算期間に入る予定となっております。

これまで、地権者や地域の皆様のご理解とご協力のもと事業を進め、相生通は、1月13日の供用を予定しており、現在施工中の区間において、開通式の開催を予定しております。

以上で、私からの発表は終わらせていただきます。

引き続き、教育長からの発表があります。

教育長から発表

続いて、「新成人のつどい」についてであります。

来年1月10日に開催を予定しております「令和2年度恵庭市新成人のつどい」につきましては、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、特に安全面に配慮して式典のみの開催とし、午後からの1日2回の入れ替え制による開催としたいと考えております。

また、成人年齢の引き下げに伴う今後の成人に関する式典の考え方につきましては、民法の改正により2022年（令和4年）4月1日より成人年齢が現在の20歳から18歳に引き下げられることに伴い、2023年（令和5年）以降に開催予定の成人を祝う式典等の実施につきまして検討して参りましたが、1月開催を基準に考えますと18歳は大学受験や就職準備時期と重なり、本人や家族の負担が大きいことなどを考慮し、本市におきましては今後、成人年齢が18歳に変更になっても現行どおり20歳を迎えた時点で祝賀行事を開催していきたいと考えております。

以上、7項目について説明させていただきました。

詳細については、各担当からお聞きください。

●質疑応答

「花の拠点（はなふる）オープン」について

（記者）全国都市緑化フェアでは駐車場の確保が課題ということだが、花の拠点オープンについては、駐車場確保の対策はあるのか？

（経済部長）全国都市緑化フェアは、非常に多くの人数が短期間の間に訪れる予定となるため、駐車場の確保を検討しているが、花の拠点については誘導が必要であるが、新たに駐車場を整備し、台数の確保ができたので足りるものと考えている。

（記者）観光の拠点として、インバウンド客を取り入れていきたいという市長の記事

を見たが、新型コロナウイルスの関係からインバウンドや道外からの旅行客を呼びにくい状況の中でどのように周知していく予定か。

(市長) 今の状況では、インバウンドを期待することはできないが、今後来ていただけるようにPRしていきたい。できれば全国都市緑化フェアに来ていただけるような環境になっていればと思っています。聞くところによると、外国人は今来れないが、日本に来るとしたらどこに行きたいか?の第2位が北海道ということなので、新型コロナウイルスが終息し、全面的に解禁となれば多くの方々に来ていただけるのではないかと考えています。

(記者) 冬期間の活用はどうするのか?

(市長) 具体的には決まっていないが、冬は冬として活用できるように考えたい。管理を「ガーデンシティえにわ」という新しい会社に委託するので、ライトアップするなど一緒に考えていきたい。冬も除雪を行い、センターハウスへの導線は確保する。

(記者) 入場者目標はあるのか?

(経済部長) 目標は定めていない。

(市長) 道と川の駅だけで、年間100万人くらい訪れている。道と川の駅に来た人は間違いなく花の拠点を訪れると思いますし、花の拠点を目当てに来た人は道と川の駅を訪れると思う。20パーセント増の約120万人を考えている。

(記者) 漁川左岸を国のかわまちづくり事業で2020年度に完成予定で整備することだが、どこまで進んでいるのか。

(市長) まだ完成はしていないが、堤防の上の市が整備している部分は、今年度で終わるよう進めている。植栽については来年の春になると思います。川側は国がこれから整備をするので、緑化フェアには間に合わないかもしれないが、ある程度形にしたいと国から伺っている。

「恵庭駅西口土地区画整理事業」について

(記者) 11月13日の相生通の開通により、この土地区画整理事業が完了することであるが、整備事業による効果として市長が感じていることはあるか。

(市長) 区画整備事業により、再開発ビルの整備を行い入居している人や空中歩廊を人が通るなど状況が変わっている。また、駅周辺に新しい建物ができていることから、「にぎわい」ができつつあるのかなと感じている。安全性では、線路と並行する道路の通り抜けができないことから、安全面に不安があった。火災などがあった場合は、消防車が入りきれないなどの問題が解決され、非常に安全なまちとなったのではないかと。今は地価も上がってきているので、土地の価値も上がってくると思われる。

(記者) 次に恵庭駅周辺で考えていることはあるのか。

(市長) まだ周辺には未利用で高度な利用になっていない場所もあるので、民間になるが、そういったものが動き出すと駅前としての更なる「にぎわい」につながるのではないかと期待している。

「小中学生及び妊婦の季節性インフルエンザ予防接種の助成」について

(記者) 一回につき1000円を助成するということか？

(市長) 自己負担が1000円です。概ね3000～4000円の費用が自己負担1000円で接種できるようになる。

(記者) 対象人数は妊婦・小中学生でどのくらいを見込んでいるのか。

(保健課長) 対象者は小学生が3756人、中学生が1954人、妊婦が449人で5割くらいが接種するのではないかと見込んでいる。

(記者) 高齢者には助成はあるのか？

(保健課長) 高齢者には元々自己負担1000円の制度があり、毎年約5割で9200人ほどが接種している。

「えにわ商品券 えにわんチケット」について

(記者) 引き換えの状況は？

(経済部長) 3万3414世帯に発送し、2万6950世帯が引き換えしており、全体として80.7%となっている。

「新型コロナウイルス感染症対策」について

(記者) 島松駐屯地から1名感染者が出たが、これから年末に入る時に自衛官が街に出なくなると飲食店の影響も大きくなると思うが、市として自衛隊との情報交換や自衛隊に対する要望などをするなどがあれば伺いたい。

(市長) 今回の感染については、駐屯地からすぐに伺い、対応についても提供いただいた。要望等はしていないが、自衛隊としても大人数での会食はしないなどの内部のルールはあるようなので、飲食店への影響は少なからずあると思うが、家族などは大丈夫なので、是非えにわんチケットを利用して食事や買い物をしてほしいと思っています。

その他について

(記者) 菅政権になって、河野大臣が印鑑の押印廃止を進めているが、市長はどう考えているのか。

(市長) これまでも印鑑を省略しようと取り組んできました。

(副市長) これまでも省略については流れの中で廃止しているものもある。国の方針が出ればそれに従って動いていく。

(市長) できるだけ印鑑の省略しながら申請した市民の皆様の手間を省くようにしていきたい。

(記者) 令和3年度の予算編成に関して、新型コロナウイルスによる税収の減収などによる影響はあるのか。

(総務部長) 新型コロナウイルスにより歳入が減る見込みであり、令和2年度より厳しい予算編成になると考えている。

(副市長) 市税の減収分についてはシーリングでカバーするなど工夫したい。